様式２

北海道遠別農業高等学校の行動計画（グローカル・アグリハイスクール宣言）

全国の農業高校の行動計画		学校において平成２９年度に重点化した取組の実現状況・課題			
「５つの基本方針」	「10の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
Ⅰ グローカル教育で人材を育てる学校	①「生徒一人一人を一層成長させる」教育を行います。	(1)アグリマイスター顕彰制度を推奨し、農業教育の質を向上する。	(1)アグリマイスター顕彰制度申請者が少なかったが、農業技術検定合格者は67%であった。	(1)意識向上に努め、アグリマイスター顕彰制度申請者を増やす。	3
Ⅱ 地域社会・産業に寄与する学校	②「世界と日本をつなぐグローカル」教育を行います。	(1)海外研修を通してグローバルな視野を養いグローカルな考えを養う。 (2)GAP取得を目指した教育活動を推進する。	(1)オーストラリア研修を通して、日本と海外の農業形態の違いを学んだ。 (2)GAP認証の公開授業・研修会に参加した。	(1)継続して取り組む。 (2)GAP認証に向けた教科指導を充実させる。	5 3
	③「地域農業の生産を支える」教育を行います。	(1)めん羊の飼育技術向上のため地域農家と連携する。 (2)地域農業に関する調査研究を推進する。	(1)めん羊農家での毛刈り実習を実施した。 (2)地域農業の調査を行い、プロジェクト学習を実施した。	(1)実施時期の調整等、連絡を密にとりながら連携を行う。 (2)地域に根差した小麦の有効利用方法を模索する。	4 4
地球環境を守り創造する学校	④「地域の農業関連産業に寄与する」教育を行います。	(1)キャリア教育を通して農業関連産業で活躍できる人材づくりを推進する。 (2)地域の課題解決に向けたプロジェクト活動を推進する。	(1)農家へのインターンシップを実施した。 (2)地域と協力し町おこしにつながる活動を展開した。	(1)受け入れ先の確保を充実させる。 (2)継続して取り組む。	4 4
	⑤「地球環境を守り創造する」教育を行います。	(1)環境に配慮した農業教育を推進する。 (2) 有機JAS認定の取得を目指し、安心安全な生産を実践する。	(1)羊糞堆肥100%利用し、化学肥料の使用を抑えた。 (2)有機JAS認証を取得した。	(1)継続して取組む。 (2)生産工程の管理、安心安全な農産物生産に努める。	5 5
Ⅳ 地域交流の拠点となる学校	⑥「食農」教育を推進します。	(1)幼児センター・小学校・中学校との交流連携学習を通して食農を推進する。 (2) 遠隔者寮の食材に本校生産物を使用する。	(1)交流・連携学習を12回実施した。 (2)適宜旬な農産物の提供を実施した。	(1)継続して取り組む。 (2)継続して取り組む。	5 5
	⑦「地域資源を活用する」教育を行います。	(1)地域特産品を活用した新製品開発を推進する。 (2)もち米をめん羊の飼料として利用する。	(1)羊ラム肉を活用したパストラミを新製品開発した。 (2)濃厚飼料の20%をもち米で代替することができた。	(1)製品の改良等、今後も研究を続ける。 (2)地域農家へ研究内容を情報開示する。	4 4
	⑧「地域交流の拠点となる」教育を行います。	(1)アンテナショップを活用し、販売会を通して地域との交流を推進する。 (2)地域と本校生徒が交流を図る場の提供を推進する。	(1)計画通り実施し、生徒自らが生産・加工・流通に関わった。 (2)NPO地域おこし協力隊と連携し、地域の大人と生徒が交流する放課後教室を実施した。	(1)地域の要望も取り入れ継続して取り組む。 (2)放課後教室の開催回数や反省点を踏まえ継続して取り組む。	4 4
Ⅴ 地域防災を推進する学校	⑨機関・団体と連携」した教育を行います。	(1)遠別町との連携を強化し、生産物の販路を拡大する。 (2)地域や関係機関等と連携し専門性の高い農業教育を実践する。	(1)遠別町のふるさと納税返礼品に実習生産物を提供した。 (2)ホクレン等と連携した出前授業を５回実施した。	(1)継続して取り組む。 (2)ICTを活用した農業を実践できるよう関係機関等と連携を深める。	4 4
	⑩「地域防災を推進する」教育を行います	(1)年間２回防災避難訓練を実施する。 (2)本校が遠別町の指定避難所になっていることを認識する。	(1)防災避難訓練を２回実施した。 (2)本校体育館の非常時施設の説明と見学を行った。	(1)継続して取り組む。 (2)継続して取り組む。	5 5